

ファーマフーズ (コード 2929)

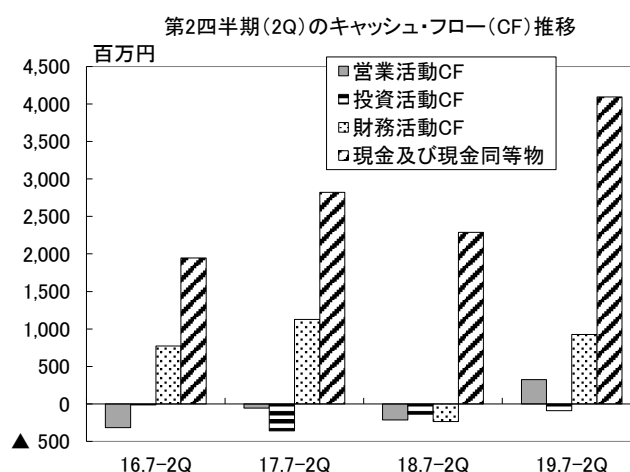
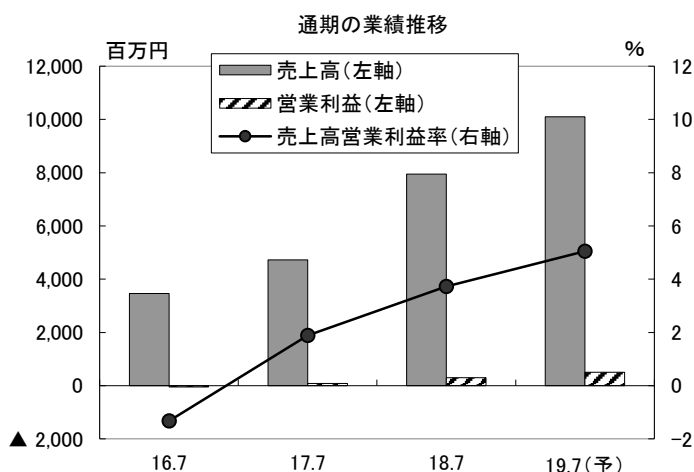
◆各決算期の第2四半期業績推移(連結)

決算期	売上高	営業利益	1株純利益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
16.7	1,683	▲441	▲14.1	0.0	▲317	▲11	774	1,947
17.7	2,009	▲497	▲16.7	0.0	▲55	▲357	1,128	2,821
18.7	3,673	▲862	▲29.1	0.0	▲215	▲135	▲233	2,290
19.7	5,188	▲288	▲8.5	0.0	323	▲91	926	4,092

◆通期業績推移(連結) (19.7 予は会社側予想)

決算期	売上高	営業利益	1株純利益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
16.7	3,460	▲46	0.9	0.0	▲35	▲46	685	2,101
17.7	4,722	89	3.5	0.0	233	▲382	903	2,861
18.7	7,943	296	10.8	0.0	415	▲172	▲182	2,934
19.7予	10,100	510	11.7	0.0	—	—	—	—

(CF=キャッシュ・フロー。現金及び現金同等物は各期末値。▲はマイナス。単位は百万円、円)

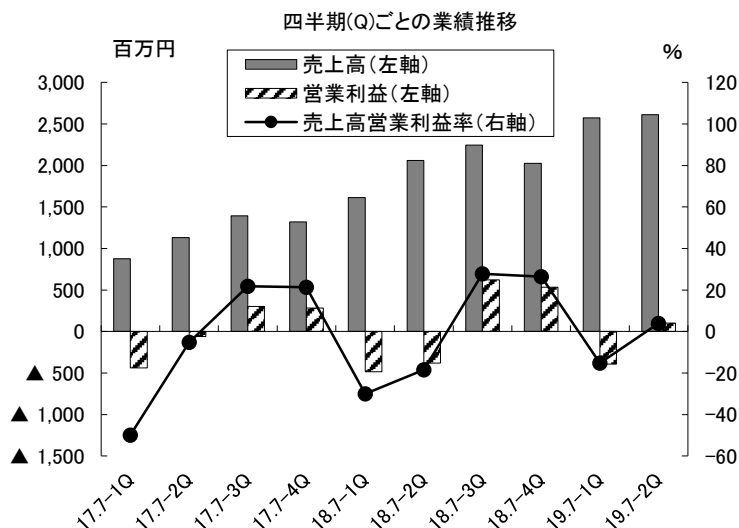


19年7月期第2四半期の業績概況…19年7月期第2四半期累計期間(18年8月～19年1月)の業績は、売上高51億8,800万円(前年同期比41.2%増)、営業損失2億8,800万円(前年同期は8億6,200万円の損失)、経常損失2億4,900万円(同8億3,200万円の損失)、親会社株主に帰属する四半期純損失(以下、四半期純損失)2億4,600万円(同8億4,400万円の損失)となった。3事業すべてにおいて好調に推移し、戦略的な先行投資に伴い通信販売事業での広告宣伝費が前年同期比15.7%増となったものの、顧客購入単価の上昇、効率を重視した広告投資の効果などにより、営業損失、経常損失、四半期純損失は大幅に縮小した。

セグメント別の売上高は、バイオメディカル事業が1億5,600万円(前年同期比1,318.2%増)、機能性素材事業が8億8,900万円(同28.7%増)、通信販売事業が41億4,200万円(同39.4%増)に。また、セグメント利益は、バイオメディカル事業が2,400万円(前年同期は2,900万円の損失)、機能性素材事業が4億500万円(前年同期比86.0%増)、通信販売事業が5億1,000万円の損失(前年同期は8億6,200万円の損失)となった。

バイオメディカル事業においては、田辺三菱製薬と自己免疫疾患治療をめざした抗体医薬に関する共同研究を展開。開発段階への早期進展を目指しており、この共同研究契約締結によって契約一時金を得たことから、売上高及び利益が増加した。機能性素材事業においては、主力商品で

ある「GABA（ギャバ）」が4億4,900万円（前年同期比29.0%増）に拡大。「機能性表示食品」として「ファンケル GABA」「ポッカサッポロ フリーティー」「グリコ メンタルバランスチョコレート GABA」「エースコック だしの旨みで減塩中華そば」「日本ハム 減塩ロースハム」「ドール ハンディチャージ」「ハウス食品 ネルノダ」「キッコーマン ピースナイト」などに採用され、国内が2億6,300万円（同21.8%増）となったほか、中国向け（同49.2%増）や北米向け（同26.3%増）の好調によって海外も1億8,500万円（同40.2%増）に拡大した。また、「ボーンペップ」が1億3,800万円（同68.3%増）に増加し、国内（同11.5%増）だけでなく海外（同166.7%増）についてもアメリカ大手サプリメントメーカーの中国向け製品に採用



されるなど好調に推移した。通信販売事業においては、化粧品が10億200万円（同1.2%減）となった一方、膝関節用サプリメント「タマゴサミン」などのサプリメントが31億1,500万円（同61.1%増）に急拡大。同事業では、定期顧客件数が当四半期末で13万9,279件（前期末比43.1%増）に伸びており、上半期に広告宣伝費が30億4,500万円（前年同期比15.7%増）に増加したものの、セグメント損失額は大きく縮小した。

キャッシュ・フロー（以下、CF）の状況については、当四半期末の現金及び現金同等物残高は40億9,200万円（前年同期末比78.7%増）に増加した。営業活動によるCFでは、税金等調整前四半期純損失が2億1,700万円（前年同期は8億2,800万円の損失）に縮小し、たな卸資産の増加額が3億2,200万円（同減少額1億4,000万円）、未払金の増加額が6億3,800万円（前年同期比7.0%増）となったことなどから、営業活動による収入が3億2,300万円（前年同期は2億1,500万円の支出）となった。投資活動によるCFでは、有形固定資産の取得による支出が8,000万円（前年同期比627.3%増）、投資有価証券の取得による支出が1,100万円（同89.3%減）となったことなどから、投資活動による支出は9,100万円（同32.6%減）に。財務活動によるCFでは、長期借入金の返済による支出が3億7,300万円（同59.4%増）、長期借入れによる収入が14億5,000万円（前年同期は無し）となったことなどにより、財務活動による収入が9億2,600万円（同2億3,300万円の支出）になった。

19年7月期の業績見通し…19年7月期の通期業績については、売上高101億円（前期比27.2%増）、営業利益5億1,000万円（同72.3%増）、経常利益5億6,000万円（同56.0%増）、親会社株主に帰属する当期純利益3億4,000万円（同8.6%増）の見通し。売上高を除き、18年9月12日に発表された会社側予想値（営業利益3億9,000万円、経常利益4億3,000万円、当期純利益3億2,000万円）が、19年3月11日付けで増額修正されている。

本レポートは、会社側が発表した決算短信や決算説明資料などに基づき作成しており、証券投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、証券の売買を勧誘する目的で作成したものではありません。株式の売買取引には、約定代金に対して手数料が必要となります。また、株式は、株価の変動により損失が生じる恐れがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断でなさいますようお願い致します。本レポートは各種データに基づいて作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありませんので、予めご了承下さい。なお、本レポートの著作権は西村証券に帰属しており、電子的・機械的などの方法を問わず、無断で本レポートを引用または複製、転送することを禁じます。